

登録コード	L2430600	開講年度	2026				
担当教員	伊藤 尽			副担当			
授業科目	英語学特論						
英文授業名	Special Lecture on English Linguistics						
授業タイトル							
単位数	2	対象学生		講義期間	後期	曜日・時限	火曜・1時限
講義室	人文第1講義室		遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】			
	2022Lカリ, 2021Lカリ, 2020Lカリ						
	【2022年度以前カリ対象】異質・多様なものを理解し、寛容かつ多角的に判断することができる受容力			英語とは異なるけれど、類似している中世北欧語の文献を読んで、ファンタジーの源泉となる北欧神話のテキストを読解することを通じて、言語と文化の繋がりやの深さを理解できるようになる			
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ						
	【2023年度以降カリ対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】			英語史で学ぶことになる、「英語」の語彙に大きな影響を与えた古アイスランド語をと古英語の文法や語彙を学ぶことで、現在英語語彙と認識されている多くの語彙が、もともと北欧語に由来することを認識でき、その意義を考察できるようになる歴史的、比較言語学的見識を踏まえた英語学研究のアプローチを知り、オリジナルな英語学研究の手法を考察できるようになる			
授業で学べる「テーマ」	芸術文化、多文化協働						
全学横断特別教育プログラム							
授業の概要	英語文献学の基礎的知識の習熟としての古アイスランド語の入門を学び、それを利用して北欧神話の中世文献テキストの読解をします。文法的知識を活用してグロスリーや註を用いて文献テキストを理解する方法を学びます						
授業計画	1 オリエンテーション アイスランドという国の紹介。授業の進め方を伝え、参考文献の紹介をします 2 古アイスランド語の名詞、冠詞、形容詞、数詞の形態論を学びます 3 古アイスランド語の動詞の形態論を学びます 4 古アイスランド語文献と古英語文献との関わりを学び、両者の関係性を把握した上で、スノッリの『エッダ』とは何かを学びます 5 スノッリの『エッダ』から、第一部「ギルヴィの惑わし」の第1章（ゲフンのシェラン島国盗り物語）を読解します 6 スノッリの『エッダ』から、第一部「ギルヴィの惑わし」の第2章（ギルヴィ王のアース神族訪問）を読解します 7 スノッリの『エッダ』から、第一部「ギルヴィの惑わし」の第4章（ギルヴィによる問答『天地創造』について）を読解します 8 スノッリの『エッダ』から、第一部「ギルヴィの惑わし」の第44章（「ソール神」についての問答の始まり）を読解します 9 スノッリの『エッダ』から、第一部「ギルヴィの惑わし」第45章（ソール神のスクリーミルとの邂逅）を読解します 10 スノッリの『エッダ』から、第一部「ギルヴィの惑わし」第46章（ソール神が宴に招かれること）を読解します 11 スノッリの『エッダ』から、第一部「ギルヴィの惑わし」第47章（ウートガルザロキの種明かし）を読解します 12 スノッリの『エッダ』から第二部「詩語法(Skaldskaparmal)」第39章「オトルの賠償について」を読解します。 13 スノッリの『エッダ』から第二部「詩語法(Skaldskaparmal)」第39章「シングルズルのファーフニル殺し」を読解します。 14 スノッリの『エッダ』から第二部「詩語法(Skaldskaparmal)」第39章「シジュウカラの対話」を読解し、『詩のエッダ』中の『ファーフニルの言葉(Fafnismal)』32、33連と同じ詩句であることを理解しま						

授業計画	す 15. シグルズルによるファーフニル殺しは、古英語『ベオウルフ (Beowulf)』中ではSigemundの竜殺しの伝説として語られる。第13回で読んだテキストには古アイスランド語でSigmundrというシグルズルの父親の名前が登場する。この事実をどのように理解するべきかを問います 最終講義の際に授業アンケートを実施します
成績評価の方法	以下の提出物で評価します 1 セルフエヴァリュエーション (60%) 2 期末レポート (40%) 期末レポートは、第15回に予定している講義での問いに対する受講生各自の解釈を論じます。 セルフエヴァリュエーションは講義の内容如何に拘わらず、
成績評価の基準	1 セルフエヴァリュエーションの評価基準は以下のとおり 自分の学習内容を具体的に記していれば可 具体的な学習内容と自分への客観的な評価内容が合致していれば良 学習内容と合致する客観的な評価がリアクションノーツと関係していれば優 客観的な評価とリアクションノーツの連関性が密であれば秀 2 期末レポートの評価基準は以下のとおり 結論に論理的な整合性が見られれば可 論理的に整合性を持つ結論への議論に多角的な視点を踏まえていれば良 論理的に整合性を持つ結論への議論の前提に先行研究への能動的な理解があれば優 論理的に整合性を持つ結論への議論で様々な先行研究に批評を伴い、発展的議論が達成できれば秀
事前事後学習の内容	事前学習は予め教科書をダウンロードして、各授業時の内容について、GlossaryやNotesを用いて予習する。 事後学習はセルフエヴァリュエーションとリアクションノーツを記載して提出する。
履修上の注意	教科書は、各自があらかじめダウンロードして事前事後学習に用いてください。 なお、ダウンロード用のURLは、e-Alps上に掲載します
質問、相談への対応	基本的に質問はリアクションノーツに記して提出します その他の相談は、メールか、事前のアポイントメントを取った上での口頭もしくはZoomによる面談を行います メールアドレスは人文学部履修案内に記載
教科書	Henry Sweet. Sweet's Icelandic Primer. Oxford: Clarendon, 1886. ただし、Alaric Hallが校訂したPDF版 (添付ファイル) を用いて文法を学びます。 テキストはインターネット上の以下のファイルをダウンロードして予習してください。 Snorri Sturluson, Edda: Prologue and Gylfaginning. Ed. Anthony Faulkes. 2nd ed. Viking Society for Northern Research, 2005. ISBN 9780903521642 Snorri Sturluson, Edda: Skaldskaparmal. 2 vols. Ed. Anthony Faulkes. Viking Society for Northern Research, 1998.
参考書	谷口幸男訳『エッダ：古代北欧歌謡集』新潮社、1973. 菅原邦城編訳『ゲルマン北欧の英雄伝説：ヴォルスンガ・サガ』東海大学出版会、1979. 下宮忠雄著『エッダとサガの言語への案内：序説、文法、テキスト・訳註、語彙』近代文藝社、2017. Henry Sweet. An Icelandic Primer. 2nd ed. Clarendon, 1895. E. V. Gordon. An Introduction to Old Norse. 2nd ed. Rev. A. R. Tylor. Clarendon, 1957. Michael Barnes. A New Introduction to Old Norse. Part 1: Grammar. 3rd ed. Viking Society for Northern Research, 2008. Jesse L. Byock. Viking Language 1: Learn Old Norse, Runes, and Icelandic Sagas. Jules William Press, 2013. ISBN 9781480216440 Jesse L. Byock. Viking Language2: The Old Norse Reader. Jules William Press, 2017. ISBN 9781481175265